



樋口 重喜 議員

# 健康立村への可能性 交通弱者への対策 人づくりと教育の役割について

## ◆健康立村への可能性について

Q 本村の観光の成り立ちには、くつろぎと保養の滞在型高原リゾートでした。そこでくつろぎと保養を満喫していただける観光地として「健康立村」の提唱を提案します。内容は、「健康」をキーワードとし、豊かな自然の中でのスポーツやハイキングは「健康のスポーツ」「健康のハイキング」で村内の宿泊施設の食事は「健康食」を提供。健康のためのセミナーや料理教室の開催、国際会議など、本村に滞在して皆元気で身も心もリフレッシュして帰っていかれるようヘルスリゾート構想が可能だと考えますが、見解を伺います。

村長 高村文教

山中湖村の自然、文化、歴史、産業などの資源、施設を活かし、自立と誇りを持ち、地域の活性化、生涯学習に役立てることを目標として、まちづくりイノベーションを図り、また、まちづくりと観光の融合を図るために、観光組織を改組して、4事業を展開して観光イノベーションを図っています。

観光課長 小林正宏

本村ならではの優れた観光資源と地域の特色を活かした健康増進対策を組み合わせた、いわゆるヘルスツーリズムが考えられる。近年の健康志向の流れを

受けた観光を取り込むことの実現は可能性が大きいと思う。

Q 本村は標高1,000メートルの高原リゾート地で、世界の聖地も同様な標高の地にありません。また、気圧は母親内で胎児が感じる気圧と同じで脳の活性に好条件な場所です。他に特化した素晴らしい村なのです。「健康立村」宣言の注目度は高いはずです。ぜひ検討を。

## ◆交通弱者への対策について

Q 人口減少・超高齢化の現代本村も例外ではない。村内に路線バスはあるが、買い物や通院などの日常生活で、バス停までの距離がある方、体の弱い方など交通弱者対策として現状認識、行政としての対策、交通弱者に対する相乗りサービス(ライドシェア)の可能性について伺う。

村長 高村文教

村では、支援制度の活用と住民参加型の「生活支援協議会」の設置など、地域が地域を支えていく仕組みづくりを進めていきたい。提案の「ライドシェア」については、本村の実情を検討し環境が整うようでしたら、その制度の活用と運用を図りたいと考えております。

いきいき健康課長 高村高夫

村では、平成28年度に新規に「生活支援協議会」を設置する

予定となっており、住民主体の外支援助を実施していく予定です。対策として、「自助」、「公助」、「互助」として地域が地域を支える取り組みを強化し、住民参加の地域福祉を目指していきたいと考えております。

Q 地域通貨の制度を導入した買い物や通院等で相乗りサービスの利用方法が可能。運転以外に自分のできることを発見し、相互にお世話交換し合う考え方で、弱者は常に弱者で終わらず、自分のできる能力や特性を活用して皆がお世話役になりうるシステムです。円滑運用のため行政の手助けが必要です。

## ◆人づくりと教育の役割について

Q 村長が考える「ひとづくり」に掲げる村民像とはどのような人物像か。具体的教育政策は何か。また、英語が話せるだけで国際人ではない。それ以外の政策はあるか。さらに、小学校統合問題の焦点が生徒数や国の適正化政策が問題というが、教育の最も大切な「人づくり」の観点から、統合との関連性について見解を伺います。

村長 高村文教

人づくりと教育の役割については、教育政策も含め教育長より説明させます。

教育長 梶浦陽

人づくりにおける教育政策については、山中湖村子ども憲章に基づいて人づくりの実現に向け、学校では学ぶ力を高め、家庭、地域では生きる力を育み、行政諸団体は、支える力の充実をそれぞれ目標に掲げている。

英語教育以外の国際人づくりへの取り組みとして、現在、姉妹都市交流を考えている。

Q 英語特区構想で保育所から英語教育というが、英語は「コミュニケーション」の道具の一つ、道具を使う人間教育こそ基本です。幼少期は「豊かな感性」と「豊かな母語」を育て、郷土や自分たちの文化に誇りを持ち、相手の文化を尊敬をもって理解し、受け入れる人こそ「国際人」と考えます。村長が描いている具体的人間像、村長が目標としている人間像はないのでしょうか。小学校の統合問題は前のめりの統合騒動だ。しかし、仮に統合を考えた場合「通学方法、災害対策、学習環境の整備、教育環境の向上」の最適地として交流プラザに隣接する元の東電保養所周辺を提案します。土地取得費が0、勿論富士山噴火の溶岩流や土砂災害の心配も0です。

村長 高村文教

私の人づくり像は、信頼される、愛される、信用される、こういう人間像を目指しています。その他は、検討させています。